

2025年度学校関係者評価報告書

学校法人 大阪文化服装学院 ヴォートレイル ファッション アカデミー

本学では、教育の質保証と継続的な改善を目的として「2025年度自己評価報告書」をもとに、産業界関係者、教育関係者、卒業生による学校関係者評価委員会を開催いたしました。その結果を以下の通り報告いたします。

1.2025年度学校関係者評価委員会出席者

〈委員〉（五十音別）

糸井弘一氏 協同組合関西ファッション連合

岩光栄太郎氏 株式会社ベストリア 当学院卒業生

河野あゆみ氏 株式会社エーツー

志貴昌弘 シード株式会社

植田茂和 株式会社玉屋

萩原直樹氏 株式会社アーバンリサーチ

吉田充行氏 大阪府立泉尾高等学校

2.学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2026年5月28日（水）14時～15時30分

場所：ヴォートレイル ファッション アカデミー 南館図書室（一部参加者はオンラインで出席）

3.学校関係者評価委員会の実施方法

事前に配布した2025年度の自己評価報告書をもとに、基準項目の小項目ごとに自己評価した状況説明、課題及び今後の改善方策等と3段階の自己判定結果を報告・説明し、各委員からご意見をいただきました。その結果、自己評価については委員のみなさんからの異論はありませんでした。委員会では委員のみなさんから多数の質問や意見をいただきましたので、主な意見と今後の課題・改善方法等について報告させていただきます。

■ 評価基準について

自己点検評価は、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン（令和8年3月）」に基づき、下記の3段階で評価しています。

評価3：基準を満たしており、特筆すべき取組を行っている

評価2：概ね基準を満たしている

評価1：基準を満たしておらず改善が必要

【項目 1】 教育理念・目的・目標

小項目	評価の基準	自己点 検評価	状況説明 課題及び今後の改善方策等	学校関係 者評価
1.教育理念、 目的及び目 標の設定等	教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	3	<p>基準を満たしている。2026年4月1日、学校名を大阪文化服装学院から「ヴォートレイル ファッション アカデミー」へ変更するにあたり、新たな経営方針、教育理念、ビジョン、教育方針、育てたい人物像を再設定し、すべてのステークホルダーに発信。今後は、再設定した理念や育てたい人物像を教職員はじめとしたステークホルダーに定着・浸透させ、当校独自の強みを発揮できる教育機関へと進化させていきたい。</p> <p>【経営理念】 クリエイションの力で、社会に「喜び」「自信」、そして「上昇気流」を。</p> <p>【教育理念】 「Vogue」＋「Trailblazer」 常に変わりゆく世の中において、時代の「開拓者」「先駆者」となるトレンドセッターを創造する。</p> <p>【ビジョン】 アジアで比類なき成果をあげ、世界にその名を刻む孤高のファッションスクール</p> <p>【教育方針】 深層探求⇒概念化⇒言語化</p> <p>【育てたい人物像】 「自問自答」し続ける 「既視感」を超える 「可能性」を追求する 「固有の世界観」を語る 「自分の軸」で生きる</p>	3

【委員からの主な意見】

- ・MVV の策定は高く評価できる
- ・理念はつくることよりも定着させることが難しい
- ・理念は判断基準として機能することが重要
- ・同じメッセージを繰り返し伝えることが必要
- ・「クリエイション」という言葉の定義がややわかりにくい

【今後の課題・改善方法等】

- ・継続的な発信・共有機会を創出することにより、教職員への浸透をはかっていく。そのうえで、教育活動のさらなる質の向上と独自性の発揮につなげていく

【項目 2】 教育課程、教育の実施、学修成果

小項目	評価の基準	自己点 検評価	状況説明 課題及び今後の改善方策等	学校関係 者評価
1.教育課程の 編成と授業科 目	①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	2	概ね基準を満たしている。教育課程編成・実施方針については、新たな教育理念や育てたい人物像をベースに、26年度中に再作成し公開したい。	2
	②外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を10単位以上開設していること。	—	外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定を受けていないので、評価項目対象外。	—
2.教育の実施	①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	3	基準を満たしている。授業科目内容に応じて適切な授業形態で教育が実施されており、かつ適切な教材を用いて、成績評価基準に基づき成績評価が行われている。	3
	②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以	3	基準は満たしている。学科ごとに企業等と連携した授業（TFL、	3

	下「実習・演習等」という)の授業を行っていること。教育課程の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。		TSI ホールディングス、ニューロープ、その他アパレル各社等)及びインターンシップにおける取得単位数を具体的に設定している。その他にも年間30件以上の産学連携プロジェクトに取り組み企業と連携した実習等を強化している。	
3.単位・卒業認定	学校の目的・目標及び養成する人材層を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき、卒業の認定をしていること。	3	基準を満たしている。卒業認定方針は、学科・コースごとに定め、卒業認定が実施されている。	3
4.学修成果目標の達成状況	卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の取得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。	3	基準を満たしている。学科ごとに卒業作品制作についてのガイドライン(目標)を設定し、目標達成に向けて適切に運用できている。	3
	学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	3	基準を満たしている。キャリア支援課が中心となり、学生の進路指導及び就職指導や個別相談に取り組んでおり、2025年度の就職率は97.5%を達成している。	3

【委員からの主な意見】

- ・新MVVと教育課程編成方針の整合性をはかる必要がある
- ・学生の価値観や行動様式が多様化している
- ・企業は主体性や挑戦意欲を持つ人材を求めている
- ・学生の能力格差が広がっている
- ・過度な期待よりも成長できる環境整備が重要

【今後の課題・改善方法等】

- ・新MVVに基づく教育課程編成方針を2026年度中に策定する
- ・教育課程の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合について、具体的に設定できていない部分もあるので今後の検討課題とする

【項目3】 学生の受入れ学生支援

小項目	評価の基準	自己点 検評価	状況説明 課題及び今後の改善方策等	学校関係 者評価
1.学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	3	基準を満たしている。入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定している。	3
	②学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。	3	基準を満たしている。直近3年にわたり、すべての学科で定員充足率5割以上を満たしている。	3
2.自主的な学習の促進に対する支援	学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	3	基準を満たしている。入学前教育は希望者に3教科実施。また入学後は希望者対象に3Dモデリスト特別ゼミやSNSゼミ、ポートフォリオ特別セミナー等を通して学生の自主的な学習を支援している。補習授業はその都度必要に応じて無償で実施。単位修得に向けての学習成果の向上や学習に対する支援も個別指導を実施している。	3
3.多様な学生に対する支援	①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。	3	基準を満たしている。教職員は外部セミナーに参加して多様な学生に対する対応スキルを学び、十分に理解したうえで、障害のある学生、留学生、社会人経験者に対して、その都度必要な個別支援を行っている。	3
	②特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路（就職）指導を行うとともに、日本人学生とも交流の機会が確保されていること。	—	外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定を受けていないので、評価項目対象外。	—
4.学生生活に関する支援	①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	3	基準を満たしている。担任制による常時相談できる体制のもと学生がコミュニケーションをとりやすい環境づくりに取り組んでいる。カウンセラーは以前契約していたが現在は事情により見合わせている。学生が予約可能な相談室については26年度中に設置予定。	3
	②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱	3	基準を満たしている。退学希望者及びその保護者との面談を綿密	3

	える学生に対し適切な対応を行っていること。		に行い、休学や転科等も選択肢として適切に対応している。	
	③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	2	概ね基準を満たしている。現状学校保健計画は未策定なので26年度中に策定する。年1回の健康診断の実施等健康管理体制は適切に運用できている。	2
	④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	基準を満たしている。国の修学支援新制度や当校独自の奨学金制度、企業が運営する奨学金制度等支援体制を充実させている。	3
	⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、適用していること。	3	基準を満たしている。キャリア支援課が中心となり学科別、職種別指導やサポートを実施。また教職員と連携をとりながら個人の特性や資質に合わせたマッチングを適切に行っている。	3

【委員からの主な意見】

- ・学生一人ひとりへの個別対応は評価できる
- ・メンタルヘルスへの対応が重要
- ・留学生支援は今後さらに重要になる
- ・留学生の就職が大きな課題である
- ・優秀な海外人材獲得の仕組みづくりが必要

【今後の課題・改善方法等】

- ・学校保健計画を2026年度中に策定し公開する
- ・ヨーロッパからの留学生受け入れも視野に入れて、海外留学生の受け入れ体制の整備や広報のあり方について検討していく

【項目4】教育実施組織・教員

小項目	評価の基準	自己点 検評価	状況説明 課題及び今後の改善方策等	学校関係 者評価
1.教員の配置、募集、	①教育課程を実施するために必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を	3	基準を満たしている。教職員の採用方針を定め、その都度求めるスキルやキャリア、人間性を含めて、1次面接2次面接で厳格に	3

採用	整備し、適切に運用していること		人選を行っている。	
	②教員の常勤・非常勤・年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また教員の専門性、教授力を把握、評価していること。	3	基準を満たしている。毎年度の授業計画により把握できている。また目標考課制度により、教員の専門性や教授力についても把握・評価できている。非常勤講師についても授業アンケート結果で評価している。	3
2.教員の組織・編制等	①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規定等で定めていること。	3	基準を満たしている。教職員組織図を毎年更新し、業務分担、責任体制を明確にしている。	3
	②教員間で連携、協力体制を構築していること。	3	基準を満たしている。毎月1回の学院会議、年1回の職員会議、講師会等を通して情報の共有化を図っている。	3
3.教員の資質向上	①学校の教育活動の改善、工夫を行う f d (Faculty Development) などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	3	基準を満たしている。毎年ファッションビジネス学会全国大会で教職員が研究発表することを奨励し褒賞制度も設けている。	3
	①-2 特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	3	基準を満たしている。当業界にはコンサルタント等専門的事業者は存在していないため、高頻度で実施している産学連携特別講義等を通して、教員の資質（発揮能力）向上に継続的に取り組んでいる。	3
	②教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修等を企業等と連携して、組織的に行っていること。	3	基準を満たしている。専門性の向上や新任教員の基礎研修等外部機関と連携した研修に取り組んでいる。	3

【委員からの主な意見】

- ・特に意見はありませんでした。

【今後の課題・改善方法等】

- ・現状特に課題はありません。

【項目 5】 教育環境

小項目	評価の基準	自己点 検評価	状況説明 課題及び今後の改善方策等	学校関係 者評価
1.教育環境の 整備	①教育上の必要性に対応できる施設・設備・機械器具等を備えていること。	3	基準を満たしている。現状、服飾専門教育に必要な施設、設備、機械器具等は十分に備えている。	3
	②学生の学習支援のための施設（自習室等）を整備していること。また学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。	3	基準を満たしている。特に休憩や食事のためのスペースとしてカフェテリアを整備。カフェテリアは通常自習室としても活用している。	3
	③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。	3	基準を満たしている。図書館を設置し、専門分野に必要な書籍を揃え、必要に応じて学生はいつでも閲覧できる。	3
2.安全対策、 防災組織	①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	2	概ね基準を満たしている。学校における安全対策に関しては適切に行っているといえるが、学校安全計画については未整備のため、26年度中に策定する。	2
	②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。	3	基準を満たしている。年1回全校生と教職員を対象にした消防避難訓練を実施し、マニュアル等も整備している。	3
3.施設・設備 等の点検、 改善等	①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。	3	基準を満たしている。マシンやパソコン等の設備も定期点検、補修を実施している。	3
	②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。	3	基準を満たしている。次年度の予算計画を立案する段階で、更新の緊急性・必要性と経営状態を鑑みて計画的に措置し実施している。	3

【委員からの主な意見】

- ・避難訓練等が適切に実施されていることは評価できる
- ・今後はBCP（事業継続計画：Business Continuity Plan）の視点も重要になる
- ・サイバーセキュリティ対策も必要

【今後の課題・改善方法等】

- ・学校安全計画については、2026年度中に策定する
- ・BCPも含めた危機管理体制の強化については事業管理部を中心に情報収集並びに検討を重ねていく

【項目6】教育活動の基盤と改善・向上の取組

小項目	評価の基準	自己点 検評価	状況説明 課題及び今後の改善方策等	学校関係 者評価
1.中期事業 計画と財務 基盤	①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育的、教育目標の実現に向けた具体的内容が位置付けられていること。	2	校名の刷新にあたり、ブランドプロデューサー学科の新設やファッションクリエイター学科内のコースの再整備等を行っている。	2
	②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	3	基準を満たしている。必要かつ十分な財務基盤は確立できている。さらに、余裕資金運用計画を策定し、証券会社大手と連携の上、インフレ率を上回る運用を開始。分配金の獲得により第二・第三の収益源とするための運用に適切に取り組んでいる。	3
2.学校運営	①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること（職業教育に関するマネジメント（教育の企画・設計・運営等）における責任体制を含む。）	3	基準を満たしている。学校運営のルールは整備されており、会議等も適切に開催され、議事録等も整備されている。特にステークホルダーに対する情報開示に注力し、透明性と公正性を重視した組織運営を実施している。	3
3.学校評価 の実施と改 善活動	①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専門学校の運営やその改善・向上において活用していること。	3	基準を満たしている。年2回開催し、委員の意見を聞きながらその都度改善・向上につなげている。	3
	①2特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	3	基準を満たしている。年2回開催している。	3
	②学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	3	基準を満たしている。エビデンス等にも記載している通り、各種報告書等の全情報をホームページ上に公開している。	3

	③学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	3	基準を満たしている。結果に基づいた改善に向けて組織として実施している	3
4.社会からの理解と情報の公表	①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	3	基準を満たしている。エビデンス等にも記載している通り、多様なメディアや報告書を通して積極的に公表している。	3
	②教育目的・目標の達成状況や活動状況に関連する教育機関、産業界をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取り組んでいること。	3	基準を満たしている。特にプレスリリースを強化し、活動状況を適時公開報告することで、社会全体からの理解を得られるよう取り組んでいる。	3

【委員からの主な意見】

- ・特に意見はありませんでした。

【今後の課題・改善方法等】

- ・環境変化が激しい中、中長期計画はあえて策定せず、時代変化に合わせた柔軟な学校運営に注力していきたい

■ 学校関係者評価委員会総評

委員会では、新たに策定された MVV (Mission・Vision・Values) を中心とした学校改革の方向性について高い評価が示された。特に、ヴォートレイル ファッション アカデミーとしてのブランド構築、国際化への取り組み、実践的なファッション人材育成の姿勢について期待が寄せられた。

一方で、MVV の組織内浸透、教育課程との整合性、多様化する学生への支援、留学生支援体制の整備、安全管理計画の制度化、中長期的な学校運営計画の策定については今後の重要課題として指摘された。

学校としては、これらの意見を踏まえ、継続的な改善活動を推進し、ファッション教育の新たな価値創造に取り組んでまいります。